

平成16年10月15日

報道機関 各位

情報化推進部情報企画課長
河野 登

第13回ペスタロッチー教育賞 表彰式並びに記念講演会のご案内

広島大学大学院教育学研究科とペスタロッチー教育賞実行委員会
は、第13回ペスタロッチー教育賞表彰式並びに記念講演会を、下記のと
おり開催いたします。

ご多忙とは存じますが、是非取材していただきますようご案内申し上げ
ます。

記

- 日時 平成16年11月10日(水)13:00～14:30
場所 広島大学教育学部K201講義室(東広島市鏡山一丁目1番1号)
主催 広島大学大学院教育学研究科、ペスタロッチー教育賞実行委員会
後援 (財)広島地域社会研究センター、中国新聞社
受賞 日本生活教育連盟委員長、日本子どもを守る会会長 中野 光
者 (なかの あきら)

プログラム

- 1 開会の辞
- 2 主催者挨拶
ペスタロッチー教育賞実行委員会委員長、広島大学長 牟田 泰三
広島大学大学院教育学研究科長 中原 忠男
- 3 祝辞
(財)広島地域社会研究センター長 篠原 康次郎
- 4 ペスタロッチー教育賞贈呈
- 5 記念品贈呈
中国新聞社代表取締役社長 今中 亘
- 6 記念講演
第13回ペスタロッチー教育賞受賞者 中野 光
- 7 閉会の辞

【問い合わせ先】

広島大学大学院教育学研究科 坂越

TEL(082)424-6731

広島大学教育学研究科 部局長支援グループ

TEL(082)424-6707

[発信枚数;A4版 3枚(本票含む)]

- [受賞者紹介 中野 光 氏](#)
- [ペスタロッチー教育賞について](#)

ペスタロッチー教育賞 受賞者紹介

日本生活教育連盟委員長
日本子どもを守る会会長

なかの あきら
中野 光 氏

中野光氏は、1929年愛知県に生まれ、16歳のとき海軍兵学校で終戦を迎えた。何も信じられないものがないという心境の中で、当時国民学校校長をしていた父、力氏に「世の中で尊敬し、信頼できる人があるのか」と尋ねたところ「そう聞かれたらペスタロッチーだな」と答えられ、これがペスタロッチーとの最初の出会いであったと語っている。1953年東京文理科大学教育学科を卒業後、桐朋学園教員を経て、1959年から2000年まで金沢大学、和光大学、立教大学、中央大学等で教育学の教育と研究に尽力してきた。

中野氏の大学教員、教育研究者としての業績はすでに知られているとおり傑出したものであり、主要著作である『大正自由教育の研究』（1968年、毎日出版文化賞受賞）のほか、『教育改革者の群像』（1976年）、『戦後の子ども史』（1987年）また『中野光教育著作選集』（全3巻、2000年）等に示されている。これらの研究業績は、単に欧米の教育理論を紹介したり適用したりするものではなく、日本の教育実践を精緻に分析し、その本質精神を浮き彫りにしたものであって、そこには子どもに注ぐ氏の温かいまなざし、ペスタロッチーの精神が貫かれている。加えて氏の研究業績の中で主要な位置を占めるものとして、日本のペスタロッチー運動史、運動を担った人物たちの研究がある。沢柳政太郎、野口援太郎、長田新をはじめとする「日本のペスタロッチー」たちにあらためて光をあてた氏の功績は大きい。

このように中野氏の教育研究は、ペスタロッチー精神を日本の教育実践の中で照明したものであり、理論的研究とその実践的展開を連関させたという点で高く評価される。これが今回のペスタロッチー教育賞受賞の一つの理由である。

第二の、そしてより高く顕彰されるべき理由として、中野氏によるペスタロッチー教育精神の実践活動があげられる。氏は、「日本生活教育連盟」（1948年創立）に参画し、現在、委員長の要職にある。この団体は文字どおり「生活が陶冶する」というペスタロッチーの理念に基づいて日本の子どもの真の教育に取り組んできており、牽引者としての氏の功績は多大なものである。また、氏は長田新や羽仁説子によって創設された「日本子どもを守る会」（1952年創立）の会長職を受け継ぎ、戦後の激動する社会の中で生活する子どもたちの現実を直視し、子どもとともに生きるというこの会の実践を先導している。日本全国各地で展開されている活動は、未来をつくる子どもたちの文化創造、平和希求運動、あるいは『子ども白書』の公刊として、今日まで広範で高い成果をあげてきている。

中野光氏の活動は、ペスタロッチー教育精神の理論的研究、その日本の教育実践への架橋、さらに自らによる実践的展開においてきわめて高く評価される。戦後から現在に至るまでの日本の子どもがおかれていた困難な生活現実を理論的に照明し、その実際の克服に取り組んだ50年に及ぶ氏の活動は、まさにペスタロッチーの精神と「教育の原点」を体現するものである。中野光氏の長年にわたる多大な功績に対し、第13回ペスタロッチー教育賞を贈呈し、高く顕彰したい。

（参考）ペスタロッチー教育賞受賞者一覧

- | | | |
|---------|-----------|----------------------------|
| 第1回受賞者 | 宮城まり子 | ねむの木養護学校校長 |
| 第2回受賞者 | 谷 昌恒 | 北海道家庭学校校長 |
| 第3回受賞者 | 児玉 三夫 | 明星学苑理事長、 明星大学学長、明星小学校校長 |
| 第4回受賞者 | 山田 洋次 | 映画監督 |
| 第5回受賞者 | NHK名古屋放送局 | 「中学生日記」制作スタッフ |
| 第6回受賞者 | 本吉修二 | 学校法人白根開善学校校長 |
| 第7回受賞者 | 黒柳 徹子 | ユニセフ親善大使 |
| 第8回受賞者 | 社会福祉法人 | 広島新生学園 |
| 第9回受賞者 | 丸木 政臣 | 和光学園学園長 |
| 第10回受賞者 | 佐野 浅夫 | 俳優 |
| 第11回受賞者 | 社会福祉法人 | 似島学園 |
| 第12回受賞者 | 九里 茂三 | 学校法人九里学園学園長 |

ペスタロッチーとペスタロッチー教育賞

広島大学大学院教育学研究科は、財団法人広島地域社会研究センターならびに中国新聞社の後援を受け、今日、我が国の極めて困難な教育状況の中で、優れた教育実践をおこなっている個人あるいは団体を顕彰するため、先のペスタロッチー賞の精神を継承し、ここにペスタロッチー教育賞を創設した。その趣意として、以下のことが挙げられる。

教育の荒廃が叫ばれる中、優れた教育を地道に実践し、「真教育」の原点を示している実践家ならびに団体を顕彰にすることは、これらの人々を勇気づけると共に、その活動を社会に広め、活性化させるために、極めて重要なことである。この賞は、混迷する教育の現実に対して、教育の原点を示し、我が国教育の立ち直りのきっかけにしようとするものである。その象徴としてペスタロッチーの名が称えられよう。ペスタロッチーは民衆教育の父であり、教育の実践家として、子どもへの限りない愛情と慈しみを身をもって示した教育者であった。同時に、多くの困難を克服しておこなわれた教育実践から編み出された教育思想・教育理論は、単に18、19世紀の所産としてではなく、常に「真教育」の象徴となり、今日に至るまで世界の教育を動かし、教育の原点を示すものと考えられている。とりわけ、本研究科には、大正10年以來の、ペスタロッチー研究および運動に関する長い伝統があることも忘れてはならない。

ペスタロッチーの実践・思想・理論には、今日の教育荒廃を克服するための方途を示す力があると確信される。ペスタロッチーの精神を教育の原点として捉え、優れた教育を実践している人々を顕彰することは、正に今日の教育にとって「地の塩」となろう。

ヨハン・ハインリヒ・ペスタロッチー JOHANN HEINRICH PESTALOZZI

スイスの教育家・教育思想家。1746年、チューリッヒに生まれる。チューリッヒの大学に学び、そこでルソーその他の革新的な啓蒙思想に触れ、政治の改革を求める学生組織「愛国者団」に入る。その後、農業を志し、アンナ・シュルテスと結婚、農業経営のかたわら、貧児・孤児の教育事業に着手する。1781年、教育小説『リンハルトとゲルトルート』を発表し、絶讃を博す。シュタンツでの孤児救済の活動を経て、1800年ブルクドルフ、1804年、イヴェルドンに学園を開く。『メーデの精神と心情』『ゲルトルート教育法』など、多くの著書を刊行する。学園は、多くの国々から参観の人々が集まり、教育実践研究のセンターとなって、ヨーロッパ、アメリカにペスタロッチー運動が広がる。1825年、弟子たちの内紛から、学園を閉鎖してノイホーフに退き、1827年、ブルックにおいて没す。82歳。

ペスタロッチー墓碑銘

ハインリヒ・ペスタロッチーここに眠る。
1746年1月12日チューリッヒに生れ、1827年2月17日ブルックに没す。
ノイホーフにおいては貧しき者の救助者。
「リーンハルトとゲルトルート」の中では人民に説き教えし人。
シュタンツにおいては孤児の父。
ブルクドルフとミュンヘンブーフゼーにおいては国民学校の創設者。
イヴェルドンにおいては人類の教育者。
人間！ 基督者！ 市民！
すべてを他人のためにし、
己には何物も。
恵みあれ彼が名に！